

新しい公共支援事業の成果等報告
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

1 事業実施内容

モデル事業名	災害にも強い多文化共生地域づくり事業																												
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠																												
事業実施主体名	NPO法人 伊賀の伝丸																												
事業概要	<p>地域のコミュニティ力を高め、災害時に地域住民と外国人住民が共に助け合える関係作りを事業目的とする。伊賀市小田町住民自治協議会をモデル地区とし、住民自治協議会や三重県・伊賀市・地元企業・ボランティアグループと協働し、次の事業を行う。</p> <p>1. 地域住民と外国人住民が定期的な交流を継続できる地域力をつける 2. 災害にも強い多文化共生地域づくりの啓発を行う 3. 他地域でも多文化共生地域づくりが展開できるノウハウや環境を整備する</p>																												
実施期間	平成 23 年度	平成 23 年 10 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで																											
	平成 24 年度	平成 24 年 4 月 4 日から平成 25 年 3 月 29 日まで																											
支援額 (注釈参照)	平成 23 年度	2,940,000 円 ※総額のみ記載してください。																											
	平成 24 年度	<p>※総額及びその内訳を記載してください。</p> <p>6,888,000 円</p> <p>【内訳】</p> <table> <tr><td>人件費</td><td>4,316,589 円</td></tr> <tr><td>通勤費</td><td>137,420 円</td></tr> <tr><td>交通費</td><td>18,960 円</td></tr> <tr><td>諸謝金</td><td>354,458 円</td></tr> <tr><td>使用料</td><td>685,050 円</td></tr> <tr><td>通訳費</td><td>173,150 円</td></tr> <tr><td>翻訳費</td><td>142,400 円</td></tr> <tr><td>光熱費</td><td>120,391 円</td></tr> <tr><td>通信運搬費</td><td>165,471 円</td></tr> <tr><td>文具消耗品費</td><td>260,699 円</td></tr> <tr><td>印刷正本費</td><td>123,660 円</td></tr> <tr><td>委託費</td><td>147,000 円</td></tr> <tr><td>資料・材料費</td><td>26,923 円</td></tr> <tr><td>消費税</td><td>215,829 円</td></tr> </table>	人件費	4,316,589 円	通勤費	137,420 円	交通費	18,960 円	諸謝金	354,458 円	使用料	685,050 円	通訳費	173,150 円	翻訳費	142,400 円	光熱費	120,391 円	通信運搬費	165,471 円	文具消耗品費	260,699 円	印刷正本費	123,660 円	委託費	147,000 円	資料・材料費	26,923 円	消費税
人件費	4,316,589 円																												
通勤費	137,420 円																												
交通費	18,960 円																												
諸謝金	354,458 円																												
使用料	685,050 円																												
通訳費	173,150 円																												
翻訳費	142,400 円																												
光熱費	120,391 円																												
通信運搬費	165,471 円																												
文具消耗品費	260,699 円																												
印刷正本費	123,660 円																												
委託費	147,000 円																												
資料・材料費	26,923 円																												
消費税	215,829 円																												

マルチステークホルダー（会議体）の取組状況	●協働事業参加組織	
	小田町住民自治協議会／三重県環境生活部多文化共生課／三重県環境生活部男女共同参画NPO課／伊賀市市民生活課多文化共生係／株式会社エクセディ／伊賀日本語の会／伊賀市在住外国人	
	●会議の実施状況	
	実施月日	会議の議題
	2011年9月27日	第1回 みえ県民センターにて事業計画や趣旨の確認
	2011年10月29日	第2回(検討会)協働メンバーの紹介、事業計画の説明
	2011年11月15日	第3回(検討会)自治会と防災に関するアンケート調査の概要
	2011年12月14日	第4回(検討会)自治会と防災に関するアンケート調査の詳細
	2012年3月9日	第5回(検討会)自治会と防災に関するアンケート調査の結果
	2012年3月27日	第6回 みえ県民交流センターにて「振返りの会」
	2012年4月23日	第7回(検討会)シンポジウム実施案
	2012年6月14日	第8回(検討会)シンポジウムの広報、多文化サークル
	2012年8月9日	第9回(検討会)シンポジウムの報告、多文化サークル立上げ
	2012年10月9日	第10回 みえ県民交流センターにて中間報告
2012年11月7日	第11回(検討会)防災ワークショップ、多言語コミュニケーション応援キット	
2012年3月5・7日	第12回(検討会)多言語コミュニケーション応援キット	
2012年3月12日	第13回(検討会)多言語コミュニケーション応援キット、まとめ	
事業内容	<p> <small>簡め事業内容、実施事項、実施方法、実施の分担(直接、委託、女性を含めて)などについて記載してください。</small> </p> <p> ①災害にも強い多文化共生地域づくりを進める為、小田地区の地域力を把握 </p> <ul style="list-style-type: none"> ・小田地区在住外国人向け「自治会と防災に関するアンケート」を伊賀の伝丸が実施し、外国人住民97世帯を訪問、88件の回答を得た。外国人住民の居住実態、日本語力、自治会や地域活動・防災に対する意識などを把握、協働メンバーと共有。 ・2回の交流会を実施(平成24年2月、3月)し、参加者のうち、積極的な住民を把握。 <p> ②小田地区の日本人住民と外国人住民を繋ぐ </p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会を通して、文化・習慣の違いを理解しあい、顔見知りになる機会を設けた。 ・地域行事の多言語チラシを伊賀の伝丸が作成。小田地区住民と協力し、外国人住民へのチラシ配布や行事への参加を呼びかけた。(夏祭り、防災ワークショップなど7回) <p> ③誕生した自主活動グループ「国際交流OTAともだちの会」の活動サポート </p> <ul style="list-style-type: none"> ・小田町住民自治協議会と協力し、交流会などの参加者に声をかけ「国際交流OTAともだちの会」の誕生に尽力した。 ・伊賀の伝丸が交流会や夏祭りで、外国人と共に屋台出店の方法、多言語チラシ作成、外国人住民への参加呼びかけ方法などを伝授した。 ・「国際交流OTAともだちの会」の文化祭「国際交流のひろば」出店(11月)と、巻きずし料理教室(2月)の実施を、サポートした。 ・「国際交流OTAともだちの会」の初年度の反省と、来年度も夏祭りの出店や料理教室の開催などを計画し、無理をしないことや楽しんで活動することなどの内容を伊賀の伝丸でも確認した。 	

	<p>④災害にも強い多文化共生地域づくりの啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自治会と防災に関するアンケート」により、在住外国人に対し、地域で助け合う重要性など、自治会の意義や活動内容を説明、また災害に備える必要性などを啓発。 ・シンポジウム『外国人住民とふりかえる大震災』実施。 <ul style="list-style-type: none"> ○公益財団法人宮城県国際化協会 大村昌枝氏による基調講演 「外国人住民とふりかえる大震災～宮城からのメッセージ」 ○パネルディスカッション「災害にも強いまちづくりを考える」 協働メンバーの広域的な広報協力があり、県内・県外から多数の参加者があった。 当日は協働メンバー総出でスタッフを務めていただいた。 ポルトガル語、スペイン語、中国語の通訳配置と、やさしい日本語でのサポートを実施。 自助・共助を認識し、外国人住民も参加するまちの重要性を考える機会とした。 ・シンポジウム内容を記録したDVDをポルトガル語と日本語併記版で作成。 11/3 三重県多文化共生啓発イベント(伊賀市)、12/2伊賀市国際交流フェスタ、12/9国際交流フェスティバル(津市)にて放映。 ・小田地区自主防災訓練に外国人住民の参加を呼びかけた。 ・「国際交流OTAともだちの会」の協力を得て、小田町で「防災ワークショップ」を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ○マップで避難所の確認 ○空き缶で非常コンロづくり ○防災ビンゴゲーム <p>⑤他地域でも多文化共生地域づくりが展開できるノウハウや環境を整備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「多言語コミュニケーション応援キット」の作成 集住地区の自治会の「外国人住民も巻き込んだ地域づくりをしたいが、その手法がわからない」もしくは「うまくいかない」という声に応えるキットを作成。 マニュアル(21頁)と多言語キット(106頁)の2部構成で作成。当事業の活動と伊賀の伝丸が設立当初より蓄積してきたノウハウを生かし、キット案を作成し、協働メンバーや外国人住民、使用する立場から「国際交流OTAともだちの会」メンバーにも意見をもらった。
<p>当初計画(採択時)からの変更点とその理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「外国人に伝わる日本語講座」を平成24年2月実施で計画していたが、2回の交流会開催に変更。(2回目の冒頭、外国人に伝わるやさしい日本語についてのミニ講座も行った。) 講義より参加型の交流会の方が、日本人住民と外国人住民との会話や交流の機会が増え、楽しみながら多文化理解が図られると判断したため。 ・計画の「よみかき教室」を小田地区住民に提案したが、教室を運営するスキルや負担が大きい、外国人もメンバーとして夏祭りなどの行事と一緒に参加する形にしたいとの意見が出、国際交流サークル「国際交流OTAともだちの会」として立ち上がった。(住民の自主的な判断に委ねた。) ・多文化座談会のテーマを防災に絞り、より実践的に発展させた「防災ワークショップ」として開催。参加者が協力してワークショップに取り組むことで、防災意識と多文化共生に対する意識の向上を目指した。

【成果】

・持続可能な自主活動グループのモデル「国際交流OTAともだちの会」誕生

「災害にも強い多文化共生の地域づくり」活動継続のための実施主体「国際交流OTAともだちの会」が、住民主体で立ち上がった。立ち上げには、防災・まちづくり・多文化に対する地域組織代表者の理解や、地域全体の理解が必要であり、伊賀の伝丸が基盤を整備しつつ、立ち上げメンバーをサポートした。立ち上げ後は、多言語の支援と、外国人メンバーとのコミュニケーション方法などのアドバイスをし、多文化イベントの試行を重ねた。平成25年3月現在、メンバーは日本人15人、外国人5人である。楽しく活動が進んだことで、次年度の活動予定も決定し、地域密着の継続した活動が期待できる。県下でも同様の活動団体（あるいは部会）を立ち上げるときの良い事例（モデル）となるものである。伊賀の伝丸は、次年度もアドバイスを継続し、モデル事業の検証を合わせて行う。



左)「国際交流OTAともだちの会」のメンバーたち

右)「国際交流OTAともだちの会」が主催した「巻きずし教室」参加者たち

・他地域でも多文化共生地域づくりを進めるための啓発

シンポジウム『外国人住民とふりかえる大震災』では県下に広く周知をし、多くの参加者を迎えた。外国人が多く住む三重県で災害にも強い地域を目指すには、多文化共生の地域づくりが重要であることを、多くの参加者に訴えることができ、取り組みを他地域へ広める下地作りが出来た。シンポジウムを記録したDVDも作成したので、今後もイベントや講演会などで上映することで、啓発が推進される。

・多言語コミュニケーション応援キットの作成

多文化イベントのノウハウと事業計画のコツを「マニュアル編」として、またこの事業で作成した多言語チラシの原版を「付録」としてまとめ「多言語コミュニケーション応援キット」を作成した。今まで、外国人住民へのアプローチ方法に悩んでいた自治組織の多文化イベントや、多文化部会やサークルの立ち上げにこのキットを活用してもらい、災害にも強い多文化共生社会を推進に役立てる。当面は当団体を通して自治組織等に無料で配布し、希望の団体には、伊賀の伝丸「多文化コンサルティング事業」としてアドバイスもさせていただき、より効果的な事業展開を目指す。活用結果のフィードバックもしていき、改訂を重ねていく予定である。

シンポジウムには155名が参加した



多言語コミュニケーション応援キット
マニュアル編20ページ
多言語チラシなど原版105ページ

	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOが調整役となり課題解決する協働事業の事例紹介 NPOが調整役となり、情報共有をしながら効果的に協働を進める事例として『～「新しい公共」のヒント集～』に掲載された。今後もフォーラムなどで協働事例として紹介していく予定である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国際交流OTAともだちの会」の継続的なサポート。 住民主体の自主活動は動き出したばかりで、「メンバーに外国人住民が少ない」「今後、広報活動などが円滑に行くかどうか不安」といった悩みを抱えている。しばらくは継続的なサポートが必要である。⇒当面サポートを継続する予定である ・「多言語コミュニケーション応援キット」の改良⇒活用してもらいつつ改訂していく
<p>平成25年度以降 の見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●多文化コンサルティング事業として、「多言語コミュニケーション応援キット」を広報・活用 <ul style="list-style-type: none"> ・「国際交流OTAともだちの会」で活用し、使いやすさの検証もする ・木曾岬町での取り組みで活用(交流事業や多言語相談会の実施を検討中) ・伊賀市の住民自治協議会(東部地区、西部地区、南部地区)へ活用の提案 ・平成25年4月19日開催、三重県市町多文化共生ワーキング会議(津市、伊勢市、伊賀市、鈴鹿市、亀山市、四日市市、桑名市の担当者が参加)でキットを紹介 ・名張市人権センター主催の国際交流イベントでの活用を検討中 ・タウン情報誌ユード、キット活用者募集(紹介記事掲載) ●「国際交流OTAともだちの会」の活動をサポート 「国際交流OTAともだちの会」の活動が小田地区で根付き、多文化共生のまちづくりが進んでいくには継続した取り組みが必要。25年度も伊賀の伝丸で、アドバイスや外国人住民への情報提供の協力などを行い、さらなる検証もしていく。具体的には、6月末頃の参加メンバー募集からになる予定。

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が50万円以上の機械及び器具等がある場合、別業にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

2 成果の達成状況等

<p>平成 24 年度に達成しようとする成果</p>	<p>① 震災被災者の体験を聞くことで、日本人住民、外国人住民、地元企業、行政機関などそれぞれの立場で防災訓練や住民間コミュニケーションの重要性を認識する。 ② 小田町住自協又は小田町自治会の行事(夏祭り、自主防災訓練、文化祭など)に在住外国人が自主的に参加する。 ③ 小田町在住の有志が「多文化サークル」を立ち上げ、平成 25 年度以降も日本人住民と外国人住民が継続的に交流できる土台を作る。</p>			
<p>具体的な指標の達成状況等</p>	<p>項目</p>	<p>当初目標設定</p>	<p>平成 25 年 3 月末の達成状況</p>	
	<p>①シンポジウムの参加者</p>	<p>目標値(100 名)/現状(-)</p>	<p>参加者 155 名</p>	
	<p>②夏祭り・防災訓練・文化祭に参加する外国人</p>	<p>目標値(のべ 40 人)/現状(-)</p>	<p>のべ 58 人</p>	
	<p>③多文化サークルの活動 (「国際交流OTAともだちの会」)</p>	<p>目標値(7 回)/現状(-)</p>	<p>のべ 9 回</p>	
	<p>成果指標の達成状況</p>			
	<p>① 協働の強みを活かし、多様な媒体を通じ広報活動を行なった結果、民間団体、行政、自治組織の役員、外国人住民などさまざまな立場の参加者が目標人数以上に集まった。 ② 夏祭りには外国人住民約 30 人が来場。防災訓練は 18 人参加、文化祭は 10 人が来場した。(運動会には数家族が参加したようだが、正確な情報がないためカウントしていない。) ③「国際交流OTAともだちの会」が発足。25 年 3 月現在、日本人 15 名と外国人 5 名で構成。活動内容は夏祭り 2 回(料理試作と当日)、文化祭 2 回(買い出しと当日)、防災ワークショップスタッフとして 1 回、巻きずし料理教室(買い出しと当日) 2 回、次年度活動の打ち合わせ 2 回。</p>			
<p>達成に向けて行った工夫 または 未達成の原因及び講じた改善策</p>				
<p>① 協働のネットワークを大いに活用 みなさんの協力の下、シンポジウム開催の告知とこの事業の意図を、県内外に周知徹底することができた。またシンポジウム当日も、スタッフとしてお手伝いいただけるよう、分担表の作成、午前午後の打ち合わせなど丁寧な運営を心がけた。 ② 各イベントでは住民が興味を持ちやすく参加しやすい企画を実施 伊賀の伝丸のこれまでのノウハウも生かし、シンポジウムでは、無線ガイドシステムを使った逐次通訳を配置。夏祭り出店や料理教室では、簡単で外国人にも人気の高いメニューを提案。文化祭では、ブラジルのお菓子や日系ブラジル人の手記パネル展示を提案。 ③ 地域のキーパーソンへの働きかけ 23 年度の交流イベントで、多文化共生や地域づくりに積極的な人(日本人外国人共)に「国際交流OTAともだちの会」への参加を呼びかけた。</p>				
<p>現状の自己評価</p>	<p>評価ランク</p> <p><input type="checkbox"/>S:特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>A:優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/>B:一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>C:限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/>D:成果が得られなかった</p> <p>(該当する評価にチェックを付けてください)</p>			